

# 当面の市況見通し (2005年4月～6月)

## 市況予想レンジ(四半期予想)

項目	時期	直近3ヵ月実績		
	予想	1月	2月	3月
長期国債10年物(%)	4～6月	1.285	1.265	1.320
	予想	～1.420	～1.490	～1.535
円ドル相場(円)	4～6月	101.87	103.50	103.70
	予想	～105.06	～105.87	～107.70
日経平均株価(円)	4～6月	11,212.63	11,271.04	11,506.85
	予想	～11,580.69	～11,754.90	～11,975.46

四半期毎の市況見通しに月次の実績を記載しております。

## 当面の見通しと注目点

### ファンダメンタルズ

#### (日本)

国内景気は再び拡大基調に転ずると予想されます。バブル後遺症である3つの過剰(雇用・設備・債務)はほぼ解消されており、企業収益は依然好調が見込まれ、景気拡大の原動力となっています。潤沢なキャッシュフローによる設備投資拡大、雇用環境改善に伴う個人消費の底堅い推移が期待でき、また外需も海外需要の減速を受けて伸び率は鈍化するものの、増加基調は継続すると見込まれます。4月1日発表の日銀短観では、大企業・製造業の業況判断DIが+14と前回比8ポイント低下したことから、景気の調整局面が継続していることが確認されましたが、収益計画は改善しており、設備投資も拡大計画となっていることから、景気後退まで至る懸念は小さいと見られます。

#### (米国)

米国景気は当面好調を維持すると見ていますが、徐々に減速局面に入ると予想します。理由としては、企業部門が在庫投資の一巡から在庫調整局面に入ること、住宅部門の金利上昇等に伴う減速、個人消費の低貯蓄率、減税効果の剥落、ガソリン価格の上昇等からの伸び率鈍化などが上げられます。物価はしばらく上振れすることが予想されます。工業用原材料、エネルギー価格の上昇と企業の価格支配力回復に伴う価格転嫁、雇用コストの上昇、ドル安などから限定的ではありますが、上昇圧力がかかっていると想定しています。

### 株 式

#### (国内)

ハイテク関連の在庫調整の進展や年度後半の景気回復を織り込むかたちで、株価は上昇を続けると予想されます。企業買収リスクの顕在化等に伴う上場企業の株主還元意識の高まりに対する期待感や企業の潤沢なキャッシュフローが株価上昇を支える等の要因が上げられます。しかしながら、米国景気の減速懸念やバリュエーション面での割安感が徐々に薄らいできており、上昇トレンドは継続するものの大幅な上昇はないと見られます。需給面では、持ち合い解消売り、代行返上売りの一巡、個人投資家の資金流入期待、外人投資家のコンスタントな買いなどから比較的良好な環境が想定されます。

#### (外国)

米国株式市場は、労働コストの増加、金利上昇による利払い増、設備投資の拡大による減価償却の増加等から企業収益の伸率が鈍化すると予想されることや景気減速の影響等から上値は抑制されると見込まれます。しかしながら、企業の余剰資金等により需給は良好であることからボックス相場と予想します。

欧州市場は、海外景気減速による企業収益の悪化や米国市場のもたつきから、上値余地は乏しいと見ています。

### 債 券 ・ 為 替

#### (債券)

国内経済は引き続き輸出・設備投資主導の景気回復が続きますが、旺盛な資金需要は見られないことからデフレ脱却には至らず、量的緩和政策も継続されることから、国内長期金利はボックス圏で推移すると予想されます。リスク要因としては、石油を中心とした原材料価格の物価への波及があげられます。

米国は緩やかな景気回復が継続する中、雇用環境の改善、インフレ指標の底打ちからFRBによる利上げが継続されます。ただし、個人消費や設備投資の減速が見込めることから、長期金利はボックス圏での推移が見込まれます。利上げを受けて、長期金利が予想以上に上昇した場合は、住宅投資、更には個人消費全体に影響が及びかねず、高い金利水準が長期に亘ることはないと思われ見られます。

欧州圏は景気のピークアウトが見込まれ、引締めバイアスであった金融政策は中立もしくは利下げへと転換されることが予想され、金利には低下圧力がかけると見ています。

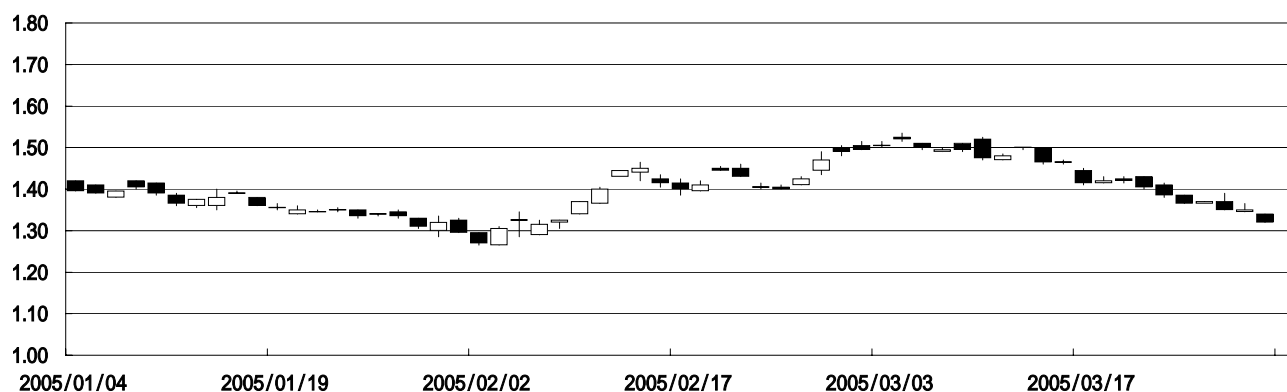
#### (為替)

円ドルは金利差からドル高圧力があり、景況感格差からモドルがサポートされる局面はあるでしょうが、米国の経常収支赤字問題は市場に根強く残ることから基本的にはドル安方向と予想しています。

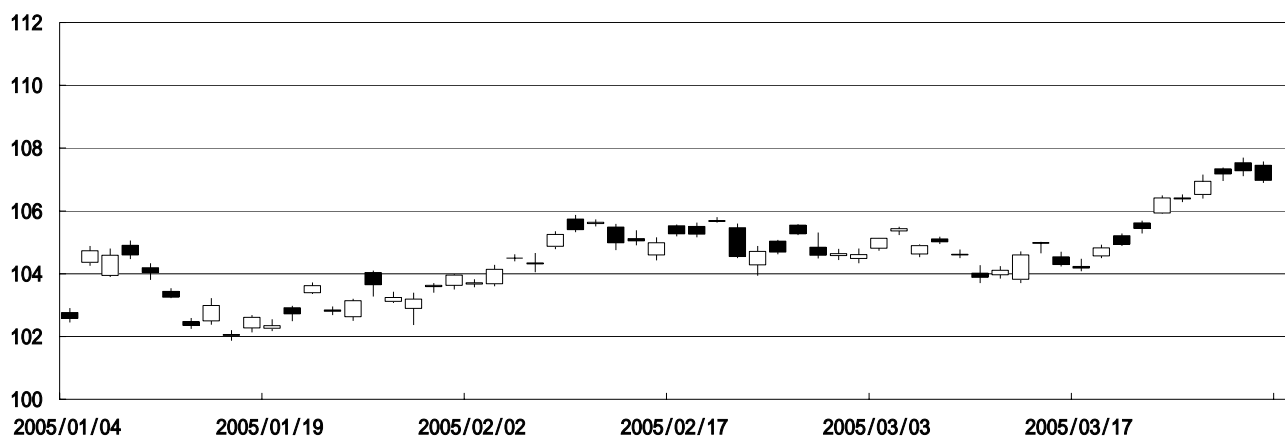
・当資料は情報の提供を目的としており、当資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。  
・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。  
・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。  
・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。

# 市況の推移

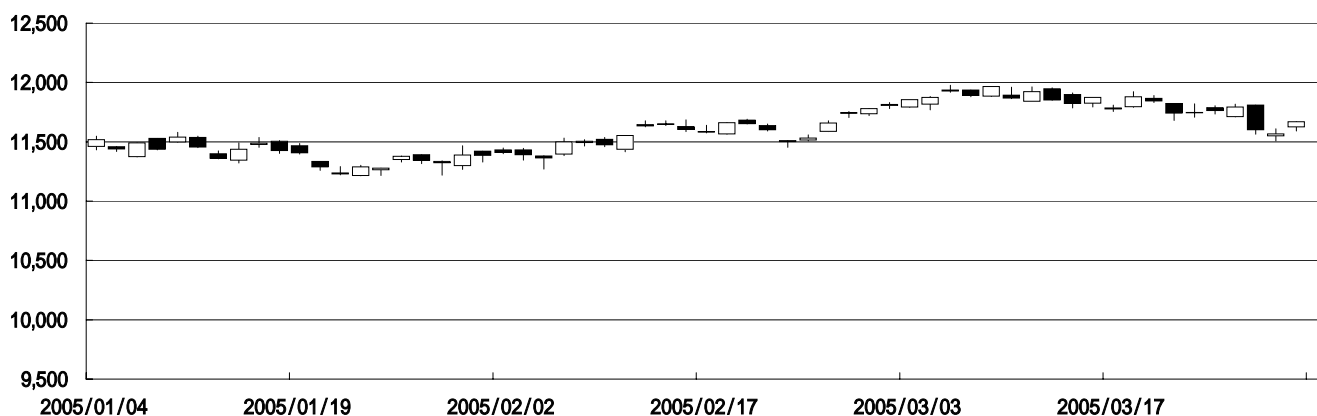
10年国債利回り



US\$/¥為替レート



日経平均225種



- ・当資料は情報の提供を目的としており、当資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・当資料は当社が信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・当資料に記載された意見などは、資料作成時点の当社の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります。
- ・投資に関する決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。